NAGASE

2019年3月期
決算説明会

長瀬産業株式会社
2019年5月24日

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

（代表取締役社長　朝倉研二によるプレゼンテーション）

長瀬産業の朝倉です。

本日はお忙しい中、ご参集いただきまして、ありがとうございます。

さっそくですが、決算説明会をスタートさせていただきます。

本日のサマリー

■2019年3月期 決算実績

- 売上・各利益ともに前期に引き続き伸長し、過去最高を更新
- 製造・加工事業が伸長し、全社の成長を大きく牽引（不採算事業からの撤退も寄与）
- 中期経営計画「***ACE-2020***」のもと実行してきた施策が着実に利益貢献

■2020年3月期 通期見通し

- 米中貿易摩擦や中東問題等、外部環境の不透明感もあり、市場環境を慎重にみている
- 基盤事業を中心に事業が伸長し、売上・各利益ともに過去最高を更新する見通し

■中期経営計画「*ACE-2020*」の進捗

- 注力領域を中心に投資を加速
- 中長期的な成長を見据え、育成領域への施策を着実に実行
- 中期経営計画「***ACE-2020***」のローリングを実施
- ガバナンス強化・中長期的な成長を目指し、海外地域統括会社を設立
- 配当金は、10期連続増配見通し

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

目次

2019年３月期 決算概況	P. 4
2020年３月期 通期業績見通し	P. 15
中期経営計画「***ACE-2020***」の進捗	P. 20
NAGASEグループの先端技術への取組み	P. 31
（参考資料）セグメント別概況	P. 44

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

2019年3月期 決算概況

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

連結損益計算書

NAGASE

✓売上高・各利益ともに過去最高を更新
■売上高 ： 加工材料および自動車・エネルギーセグメントを中心に好調に推移し、全体として増収
■営業利益 ： 増収に加え、製造子会社における収益性の改善等により、増益
■親会社株主に帰属する当期純利益 ： 段階利益の増加に加え、投資有価証券売却益の計上等により、増益

（単位：億円）

	18/03	19/03	増減額	前期比	期首公表計画値	計画比
売上高	7,839	8,077	+ 238	103%	8,280	98%
売上総利益	1,026	1,054	+ 27	103%	1,073	98%
＜利益率＞	*13.1%*	*13.1%*	*△ 0.0%*	–	*13.0%*	–
販売費及び一般管理費	785	802	+ 16	102%	818	–
営業利益	241	252	+ 11	105%	255	99%
経常利益	259	266	+ 6	103%	275	97%
親会社株主に帰属する当期純利益	171	201	+ 29	117%	186	108%
US$レート（期中平均）	@ 110.85	@ 110.92	@ 0.07 円安		@105	–
RMBレート（期中平均）	@ 16.7	@ 16.5	@ 0.2 円高		@ 16.5	–

【為替変動による19/03期実績 売上高および営業利益への影響額】
売上高 ： 約△16億円　　営業利益 ： 約△0.4億円

【1円変動当たり影響額】
売上高 US$ ： 約6.9億円　　営業利益 US$ ： 約0.2億円
RMB ： 約76億円　　RMB ： 約2.2億円

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

まず、2019年3月期の決算概況です。
連結損益計算書ですが、売上高8,077億円、営業利益252億円、
親会社株主に帰属する当期純利益201億円となりました。

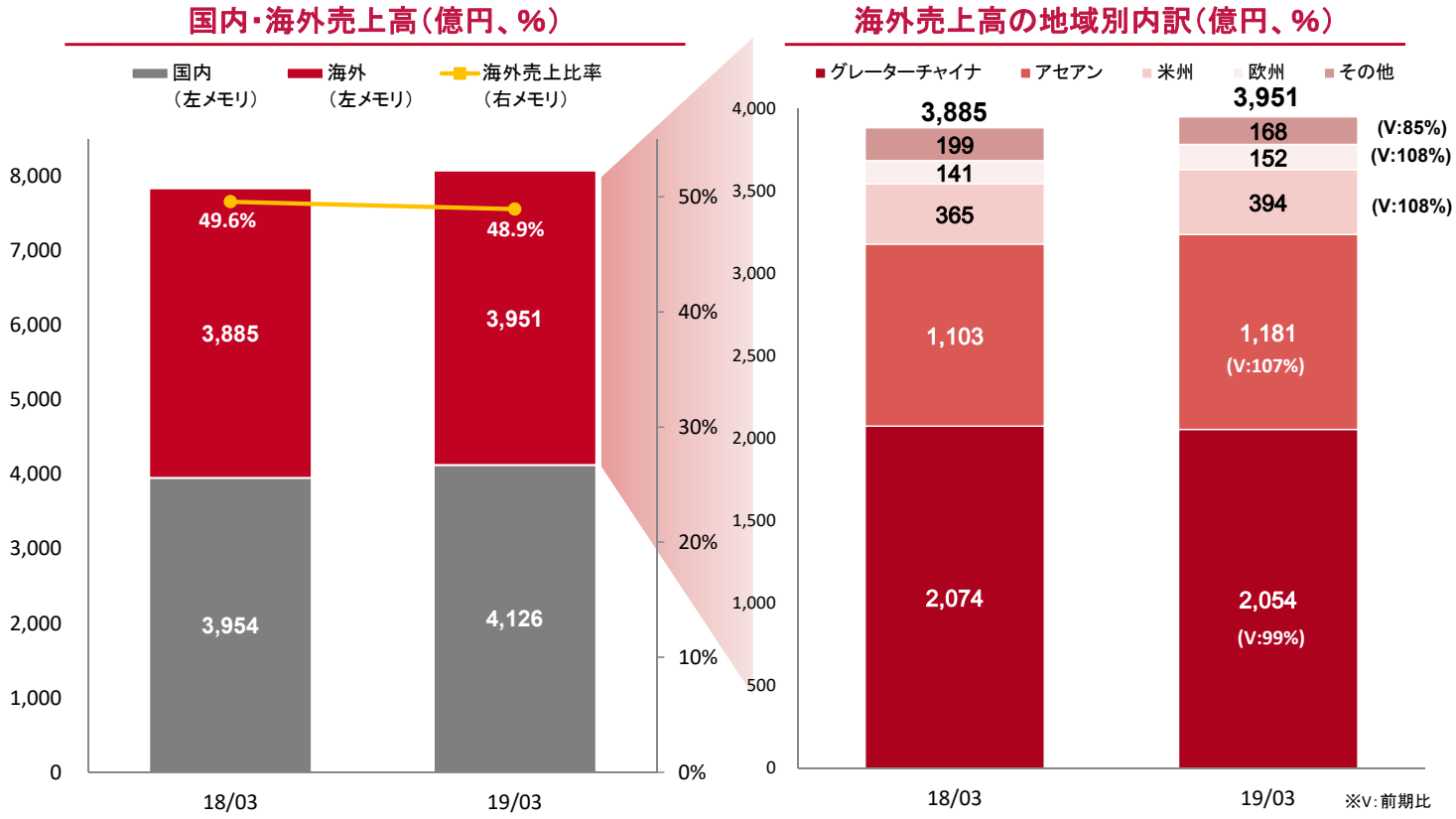
みなさまもよくご承知のとおり、下期、とくに11月以降から、当社を取り巻く環境の中で、
とくに中国を筆頭として景況感が下降線をたどったわけですが、
おかげさまで通年では売上高、各利益ともに過去最高を更新するに至りました。

前期は5つのセグメントのすべてが好調に推移したわけですが、
今期はセグメントごとで若干のでこぼこが生じています。
このあたりは後ほどご説明いたします。
また、スライド左下の部分に、為替の影響額を記載しています。
今期は為替の影響はあまり大きくなかったと見ています。

地域（国内・海外）別売上高

NAGASE

■国内事業に加え、アセアンおよび米州を中心に海外事業が好調に推移（海外売上比率48.9%）



Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

続きまして、地域別の売上高についてご報告します。

まずは国内、とくに素材関連の市場が今後爆発的に大きくなるということはあまり見込めませんが、
国内売上高が4.3パーセント増加しています。
一部、素材の値上げもありましたが、おかげさまで当社の国内の各組織の営業が、
私どもの言葉でいうと売り負けることなく、きちっと仕事を増やせたということで、
売上増となっています。

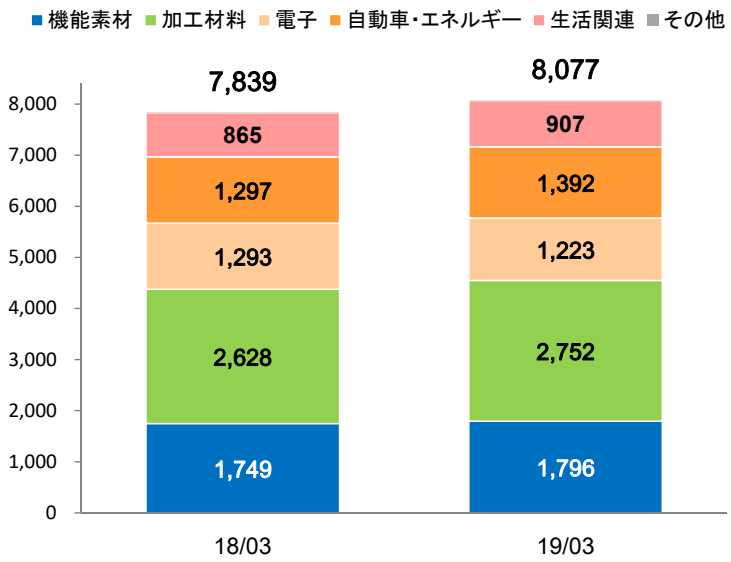
海外に目を向けますと、アセアンと北米において、約8パーセントの売上増となりました。
一方で、グレーターチャイナは若干の減収となっていますが、
人民元安の影響がなければ、ほぼ横ばいという状況です。
結果的に、海外の売上比率は48.9パーセントとなっています。

セグメント別売上高2期比較

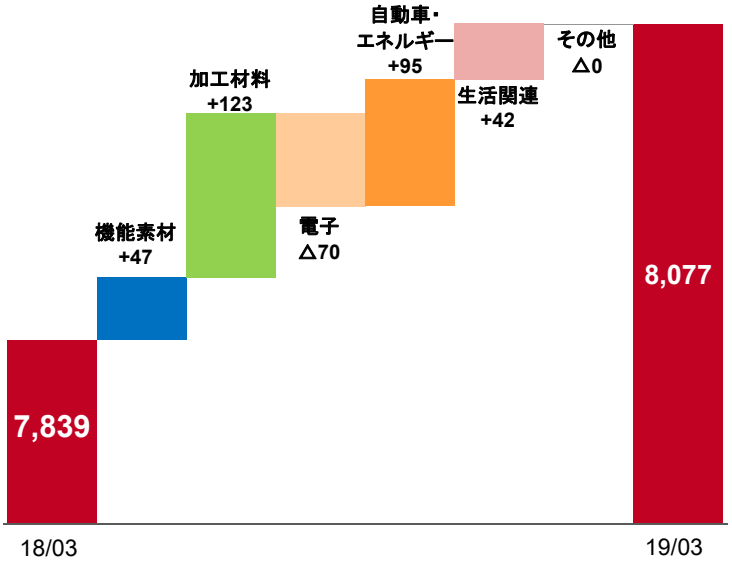
NAGASE

■加工材料：国内外において、合成樹脂および情報印刷関連材料等の売上が増加し、増収
■電子：変性エポキシ樹脂等の売上は増加したものの、ディスプレイ関連部材およびフォトリソ材料等の売上が減少し、減収
■自動車・エネルギー：自動車の自動・電動化に伴う需要を取り込み、エンジニアリングプラスチックおよびカーエレクトロニクス関連部材の売上が増加し、更に電池材料等の売上が増加し、増収

セグメント別　売上高（億円）



セグメント別　売上高 増減（億円）



※1 当期においてセグメント区分の変更を行っており（機能素材の一部を生活関連へ）、18/03の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。
※2 自動車・エネルギーセグメントは、2019年4月より、モビリティ・エネルギーセグメントに名称変更しております。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

この表は、セグメント別の売上高を示しています。

加工材料セグメント、自動車・エネルギーセグメントにおいては、おもにプラスチック素材を中心に、今期、伸ばすことができました。

一方、電子セグメントは、前期比マイナスとなっています。
中心となる製品の1つであるエポキシ関連は堅調に推移したわけですが、
ディスプレイに用いられる光学フィルム等の販売が残念ながら低調に推移したこと、
また、前期は電子部品製造に用いられる装置の販売が好調でしたが、
その装置の販売が減少したことが、電子セグメントのマイナス要因となっています。

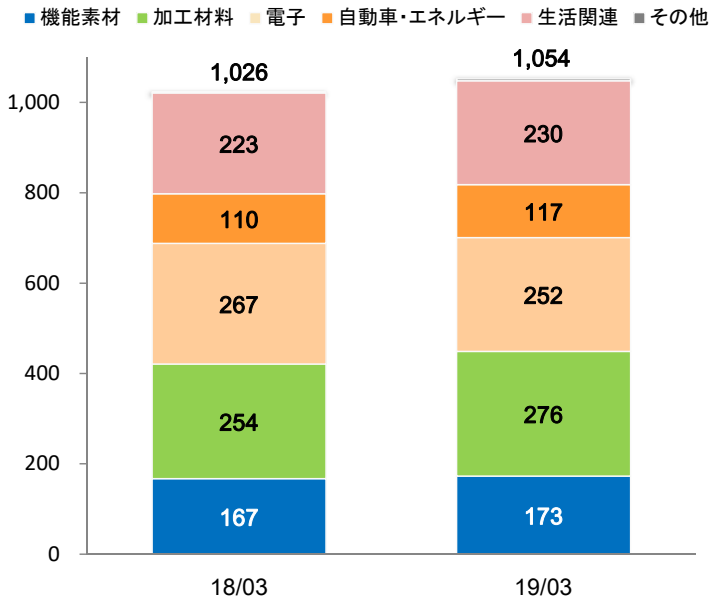
多少のでこぼこはありますが、活動領域は多岐にわたり、
結果的に売上を維持できているということで、
このセグメントポートフォリオとしては功を奏しているのではないかと判断しているところです。

セグメント別売上総利益2期比較

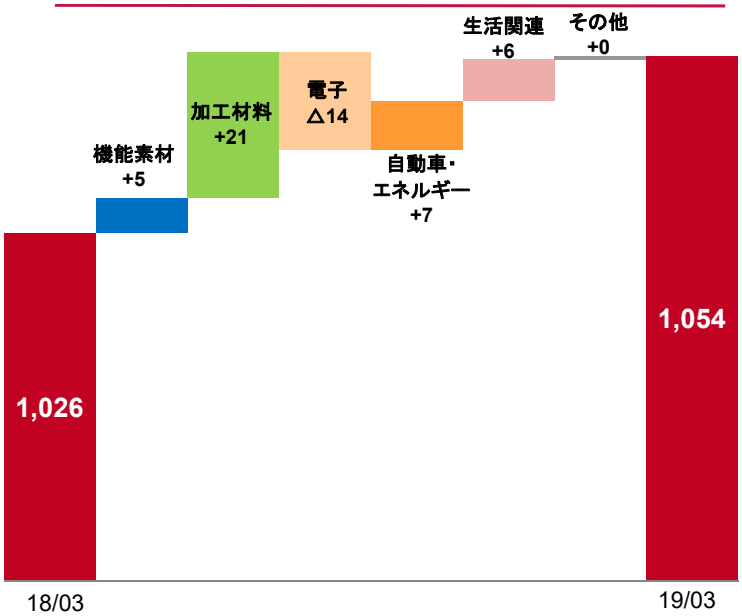
NAGASE

■増収の影響を受け、増益

セグメント別　売上総利益（億円）



セグメント別　売上総利益 増減（億円）



※1 当期においてセグメント区分の変更を行っており（機能素材の一部を生活関連へ）、18/03の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。
※2 自動車・エネルギーセグメントは、2019年4月より、モビリティ・エネルギーセグメントに名称変更しております。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

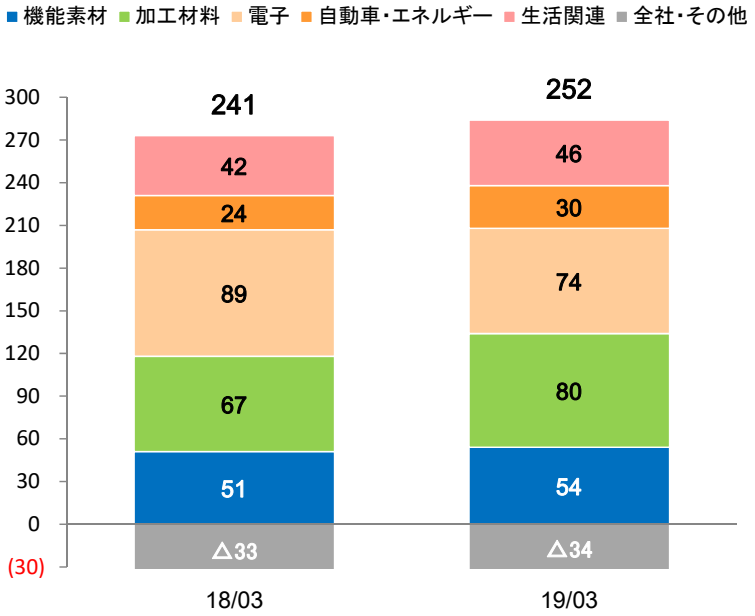
利益については、売上総利益のページは割愛させていただき、
営業利益のところでまとめてご説明します。

セグメント別営業利益2期比較

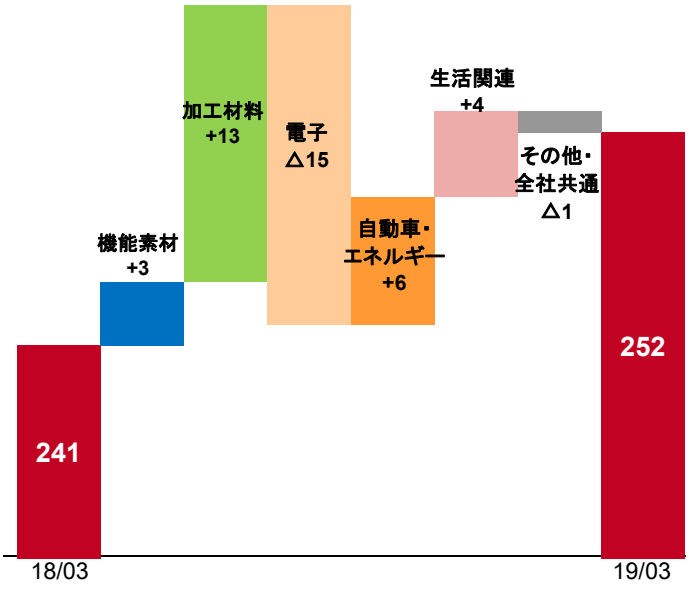
NAGASE

■電子を除く全セグメントにおいて、増益
■加工材料：増収に加え、国内外の製造子会社の収益性の改善等により、増益
■電子：減収に加え、前期大幅に増加したスポットビジネス（スマホ向け電子部品製造装置販売）が減少したこと等により、減益

セグメント別　営業利益（億円）



セグメント別　営業利益 増減（億円）



※1 当期においてセグメント区分の変更を行っており（機能素材の一部を生活関連へ）、18/03の実績値については、当該変更後の区分に組替えて記載しております。
※2 自動車・エネルギーセグメントは、2019年4月より、モビリティ・エネルギーセグメントに名称変更しております。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

電子を除く全セグメントで増益となっていますが、セグメント単位で簡単に説明します。

（機能素材セグメント）2017年に北米で買収したFitzChem社という会社があります。ケミカルのディストリビューターですが、FitzChem社の業績が通年で寄与したということが大きな増益の要因となっています。

（加工材料セグメント）増収からの増益に加え、昨年から申し上げていますが、情報印刷関連事業に関わる製造子会社の収益が改善したこと等によるものです。

（電子セグメント）減収により減益となりましたが、とくにフォトリソ材料事業において、当社ではパイプラインでケミカルを供給する仕事を行っており、この仕事において、1月から3月にかけて顧客の稼働率が著しく低下していました。ここの販売数量の減少が大きく収益にも影響しています。幸い、足元では稼働率が回復していますので、この部分については一時的なものと判断しています。

（自動車・エネルギーセグメント）こちらもやはり、プラスチック関連の仕事が伸びています。汎用のプラスチックのみならず、エンジニアリングプラスチックと呼ばれる、高機能を有するプラスチックの販売が伸長しています。加えて、とくに中期経営計画でも推進していますが、カーエレクトロニクス関連の材料、部品の販売が順調に成長し、増益の要因となっています。

（生活関連セグメント）「トレハ®」等の食品素材の増収に加え、以前からある程度好調を維持しているパーソナルケア関連素材が、インバウンドの影響による旺盛な需要等から増収となり、増益となっています。加えて、ナガセケムテックスの福知山工場で生産している酵素関連の事業について、これまで収益面で少し足を引っ張る状況でしたが、この酵素の仕事が収益面で大幅に改善したことが、増益の要因となっています。

主な連結子会社等の業績

NAGASE

■ナガセプラスチックスは、前期獲得した新たな国内商権が好調に推移したこと等により、増収増益
■Nagase (Thailand) Co., Ltd.は、自動車業界向けエンジニアリングプラスチックの販売等が好調に推移し、増収増益

（単位：億円）

	社　名	売上高	前期比	営業利益 (注2)	前期比
製造会社	林原	254	104%	51	102%
	ナガセケムテックス	260	100%	28	95%
	製造会社計 (注1)	1,087	101%	116	102%
国内販売会社	ナガセプラスチックス	370	103%	9	103%
	西日本長瀬	92	114%	5	128%
	ナガセケミカル	188	102%	3	105%
	国内販売会社計 (注1)	946	104%	28	113%
海外販売会社	Nagase (Thailand) Co., Ltd.	401	106%	13	111%
	上海華長貿易有限公司	360	94%	9	107%
	上海長瀬貿易有限公司	447	109%	9	118%
	海外販売会社計 (注1)	3,835	105%	90	102%

※（注1） 各カテゴリの合計は、対象会社の単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません。
※（注2） 営業利益は、のれん及び技術資産等の償却前の数値となります。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

おもな連結子会社の業績についてです。
林原とナガセケムテックスは、次のページでご報告します。

西日本長瀬が大きく伸びていますが、これは中国地方のカーメーカー様に内装部品関連をお納めする仕事が大きく増えたことが最大の要因です。

海外においては、タイが伸びています。いろいろと政情不安等もありますが、
経済としては2年ほど前にいったん少し悪化しましたが、今は非常に堅調に推移していると見ています。

その中で、Nagase (Thailand) Co., Ltd.において、自動車関連の仕事、とくにエンジニアリングプラスチックの販売が好調に推移し、業績が伸びています。

私はこの2年ほど、決算説明会の場で、「電子部品の生産が日本・台湾から、必ず中国に移管していく」というご説明をしました。実際に、中国における液晶関連、半導体関連等の生産は爆発的に伸びています。

当社では、上海にその専門のチームを早めに作り、人員も増強し販売活動を行っています。こういった取組みによるビジネスの増収増益が、上海長瀬貿易有限公司の業績につながっています。

主要製造子会社2社の状況

NAGASE

■林原：トレハ®およびAA2G®の売上の増加に加え、林原ヘスペリジン®Sやファイバリクサ®の新規採用等による売上の増加等が寄与し、増収増益。（NAGASEグループとなって以来、売上高は過去最高を更新）

■ナガセケムテックス：エポキシ樹脂事業をはじめ機能化学品事業および生化学品事業は好調に推移したものの、顧客稼働率低下等の影響により、フォトリソ材料事業の売上が減少し、売上高は横ばいとなり、利益面では、新規開発促進に向けた研究開発費の増加等もあり減益

林原

（単位：億円）

	18/03	19/03	増減額	前期比
売上高	243	254	＋10	104%
営業利益	50	51	＋1	102%

・トレハ®は、主食（製パン等）分野向けに販売が好調に推移し、増収
・AA2G®は、国内はインバウンド需要、海外は新規顧客開拓等もあり、増収
・林原ヘスペリジン®Sおよびファイバリクサ®が食品業界向けに新規採用が進み、増収
・医療・健康食品用ハードカプセルおよび口中清涼フィルム向けにプルランの売上が増加
・原材料費の上昇に加え、成長に向けた販売体制強化等による一般管理費の増加等もあり、営業利益は微増

ナガセケムテックス

（単位：億円）

	18/03	19/03	増減額	前期比
売上高	259	260	＋1	100%
営業利益	29	28	△1	95%

・エポキシ樹脂事業は、上期スマホ関連が堅調に推移し、さらに重電・弱電・半導体向け等が通年で堅調に推移し、増収
・フォトリソ材料事業は、顧客稼働率低下等の影響により、減収減益（2019年度は、新規ビジネスも立上り回復する見通し）
・機能化学品事業は、LCD業界向け導電性材料および3Dプリンター・タイヤ用途にエピクロ誘導体の販売が好調に推移し、増収
・生化学品事業は、健康食品および食品業界向け放線菌由来の酵素等の販売が好調に推移し、増収
・フォトリソ材料事業の減収が大きく、売上高は前年並みとなり、新規開発促進に向けた研究開発費の増加等により、営業利益は減少

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

林原についてご報告します。

「トレハ®」および「AA2G®」は、売上は増加しました。

加えて、「林原ヘスペリジン®S」や「ファイバリクサ®」といった商品が新規採用等により売上が大きく伸びたことも、この増収の要因となっています。

また、みなさまもよくお使いになる薬のカプセルについてです。実はほとんどの場合、カプセルにはゼラチンが使われていましたが、ある一部用途で林原が生産する「プルラン」という製品が使われています。この「プルラン」の販売状況が非常に好調です。この件は後ほどもう少し述べますが、これも林原の増収の要因となっています。

一方で、原料となるでんぷん価格の高騰はいかんともしがたい状況です。複数のソース等から購入を図り、極力価格を抑えようとしていますが、どうしても収益面への影響が避けられない状況になっており、林原の営業利益の伸びが売上ほどではない大きな要因となっています。

ナガセケムテックスは、エポキシ事業と機能化学品事業は堅調に推移しています。

一方、先ほどもご説明しました液晶等に用いられる薬液の仕事（フォトリソ材料事業）が低調に推移したことから、売上は前期比100パーセントとなりました。次に利益面についてです。

以前にご報告しましたフィンランドのInkron社という主に研究開発を担う会社ですが、まだInkron社は開発リッチの状況ですので、同社との取組みに係る費用等もあり、利益面ではマイナス5パーセント、前期比95パーセントとなっています。

連結貸借対照表

NAGASE

■自己資本比率は、0.9ポイント増加し、54.2%

資産

	18/03	19/03	増減額
流動資産	**3,533**	**3,658**	**+125**
現金・預金	433	440	+7
受取手形・売掛金	2,259	2,304	+44
たな卸資産	736	810	+73
その他	103	102	△0
固定資産	**2,161**	**2,015**	**△146**
有形固定資産	672	664	△7
無形固定資産	410	372	△38
投資・その他の資産合計	1,078	977	△100
投資有価証券	1,004	902	△101
その他	74	75	+0
資産合計	**5,694**	**5,673**	**△21**

負債及び純資産

（単位：億円）

	18/03	19/03	増減額
流動負債	**1,929**	**2,018**	**+88**
支払手形・買掛金	1,180	1,172	△7
借入金・CP・1年内償還予定の社債	480	579	+99
その他	269	266	△2
固定負債	**676**	**528**	**△147**
長期借入金・社債	379	275	△103
退職給付に係る負債	145	124	△20
その他（繰延税金負債等）	152	128	△23
負債合計	**2,606**	**2,547**	**△59**
純資産	**3,088**	**3,126**	**+38**
株主資本	2,502	2,628	+126
その他の包括利益累計額	533	447	△85
その他有価証券評価差額金	507	418	△89
為替換算調整勘定	29	32	+3
その他	△3	△2	+0
非支配株主持分	51	49	△2
負債及び純資産合計	**5,694**	**5,673**	**△21**

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

貸借対照表です。

純資産が若干増えております。

自己資本比率におきましては、0.9ポイント増加し、54.2パーセントという状況です。

連結キャッシュ・フロー

NAGASE

キャッシュ・フローの状況

（単位：億円）

	19/03	主な内訳	18/03
営業活動によるキャッシュ・フロー	173	税金等調整前当期純利益 ＋282 減価償却費・のれん償却 ＋111 運転資金の増減 ▲125 法人税等の支払 ▲48	210
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 73	投資有価証券の売却による収入 ＋54 有形・無形固定資産の取得による支出 ▲107 投資有価証券の取得による支出 ▲25	▲ 144
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 89	コマーシャル・ペーパーの純増加 ＋70 長期借入金の返済による支出 ▲111 配当金の支払 ▲51	▲ 31
現金および現金同等物に係る換算差額	1		▲ 1
現金および現金同等物の増加額(▲減少額)	12		32
現金および現金同等物の期首残高	428	日本 226、ｸﾞﾚｰﾀｰﾁｬｲﾅ105 、ｱｾｱﾝ 46 、欧州 30 、米州 4 、その他 12	397
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	▲0		▲1
現金および現金同等物の期末残高	440	日本 225、ｸﾞﾚｰﾀｰﾁｬｲﾅ 123 、ｱｾｱﾝ 47 、欧州 21 、米州 3 、その他 18	428

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

キャッシュ・フローについての表ですが、こちらにありますとおり、

投資・財務活動よる支出は増えたものの、

営業活動による収入により12億円の増加があり、

現金および現金同等物は440億円となっています。

第2四半期の時点では運転資金の増加等により営業活動によるキャッシュ・フローが

マイナスとなっていましたが、

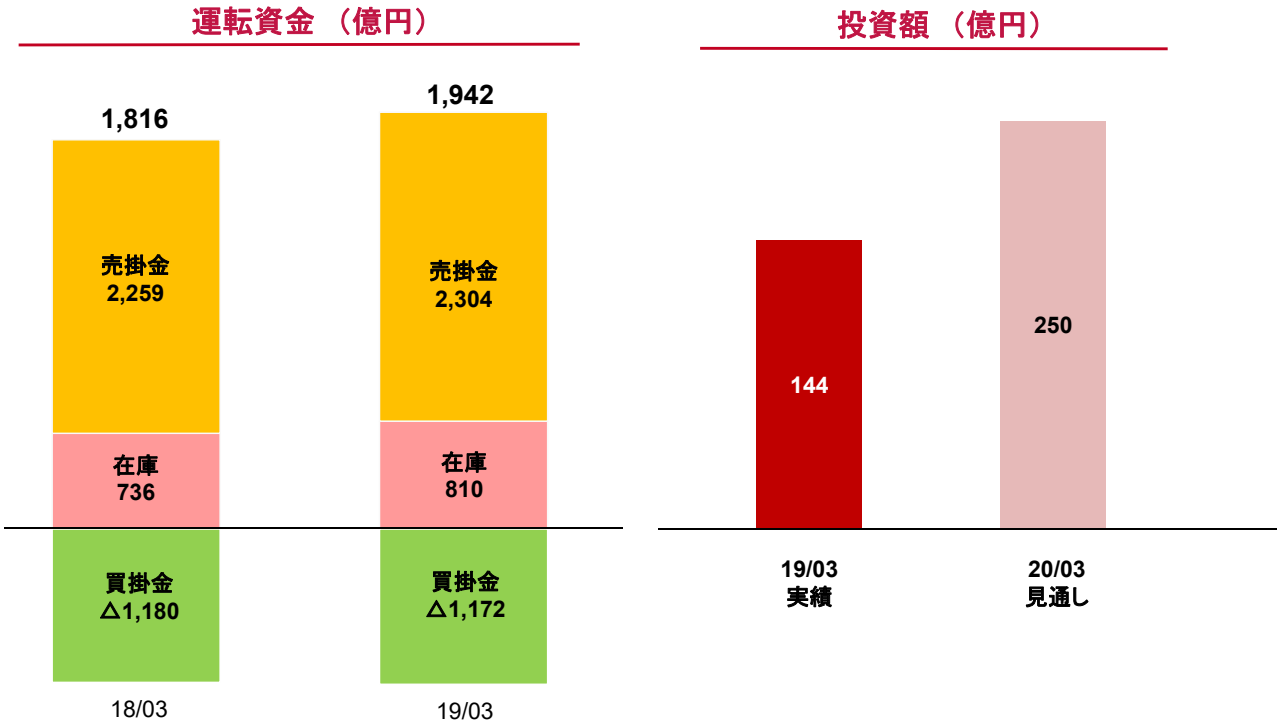
利益の計上および運転資金の減少等により、

営業活動のキャッシュ・フローはプラスに転じています。

運転資金および投資額について

NAGASE

■運転資金：売上高の増加等に伴い、運転資金が増加
■投資：注力領域であるライフ＆ヘルスケアおよびエレクトロニクスを中心とした成長投資を実施



Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

運転資金と投資についてお示ししています。
売上の増加に伴い、運転資金が増加しています。

第2四半期の際に報告した在庫ですが、
2018年9月から10月をピークに少しずつ在庫を減らしています。
2018年3月末から在庫は増えていますが、今は健全な状態になっているという判断をしています。
これについては前回もご報告しましたが、
グループをあげて各組織で徹底した管理を行っており、
リスク性の高い在庫はミニマイズできているものと考えています。

2020年3月期 通期業績見通し

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

2020年3月期 業績見通し

NAGASE

■米中貿易摩擦および中東問題など世界情勢において不透明な状況が続いているが、基盤事業を中心に事業が伸長し、前期に引き続き、売上高・各利益ともに過去最高を更新する見通し

（単位：億円）

	19/03	20/03	
	実績（A）	見通し（B）	前期比（B/A）
売上高	8,077	8,500	105%
営業利益	252	260	103%
経常利益	266	270	101%
親会社株主に帰属する当期純利益	201	205	102%
US$レート（期中平均）	@110.9	@110.0	–
RMBレート（期中平均）	@16.5	@16.0	–

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

ここからは、通期の業績見通しをご報告します。

みなさまもよくご存じのとおり、

米中貿易摩擦や、とくに化学品関連で見ると中東情勢等で不透明な状況が続いています。

しかし、基盤事業を中心に伸びを期待し、

2020年3月期においても売上・各利益ともに過去最高を更新するべく、ワークしているところです。

業績見通しですが、売上8,500億円、営業利益260億円、

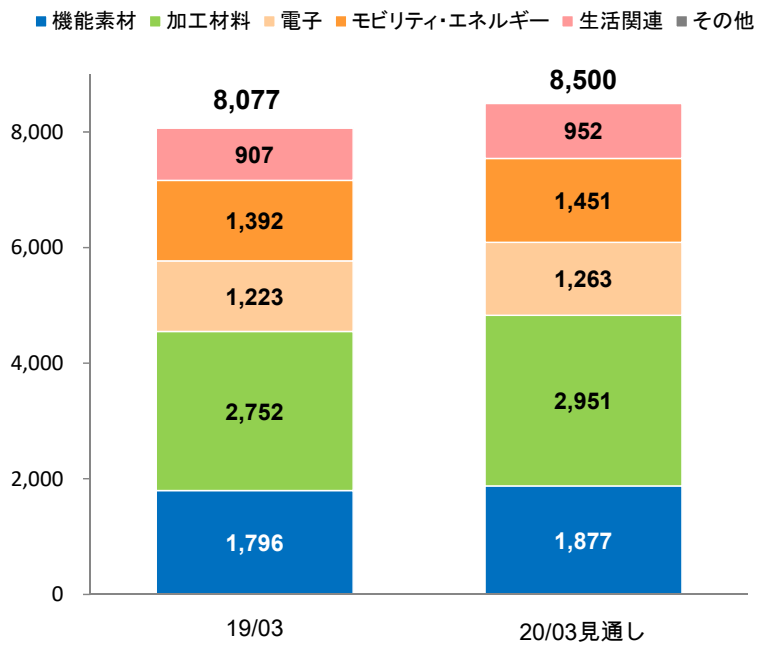
親会社株主に帰属する当期純利益205億円を見通しています。

セグメント別売上高見通し

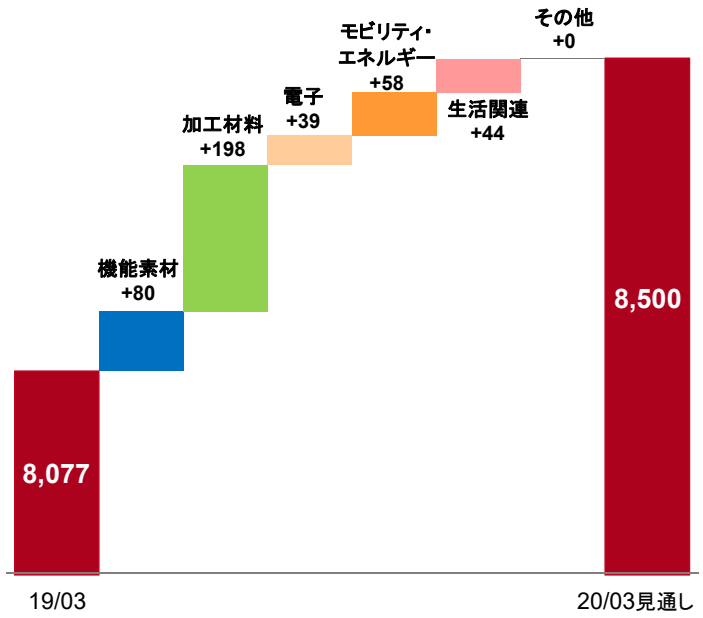
NAGASE

■機能素材：従来からのビジネスに加え、新たな環境関連ビジネスの立上げ等もあり増収見通し
■加工材料：国内外における樹脂および情報印刷関連材料等の販売が好調に推移し、増収見通し
■モビリティ・エネルギー：モビリティの自動・電動化等の需要を取り込み、カーエレクトロニクス関連部材および機能性素材等の売上が増加

セグメント別　売上高（億円）



セグメント別　売上高 増減（億円）



※ 自動車・エネルギーセグメントは、2019年4月より、モビリティ・エネルギーセグメントに名称変更しております。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

セグメント単位でご報告しますと、
穏やかながら全セグメントにおいて伸びると見ています。

塗料原料やプラスチック等の従来ビジネスも若干の伸びがあると思っていますが、
例えば機能素材セグメントにおいては環境関連の仕事、
モビリティ・エネルギーセグメントにおいてはカーエレクトロニクス関連部品のさらなる成長、
そして生活関連セグメントにおいては林原の新素材のより多くの受注販売等、
中期経営計画「ACE-2020」の施策が少しずつ業績につながり始めていると考えています。

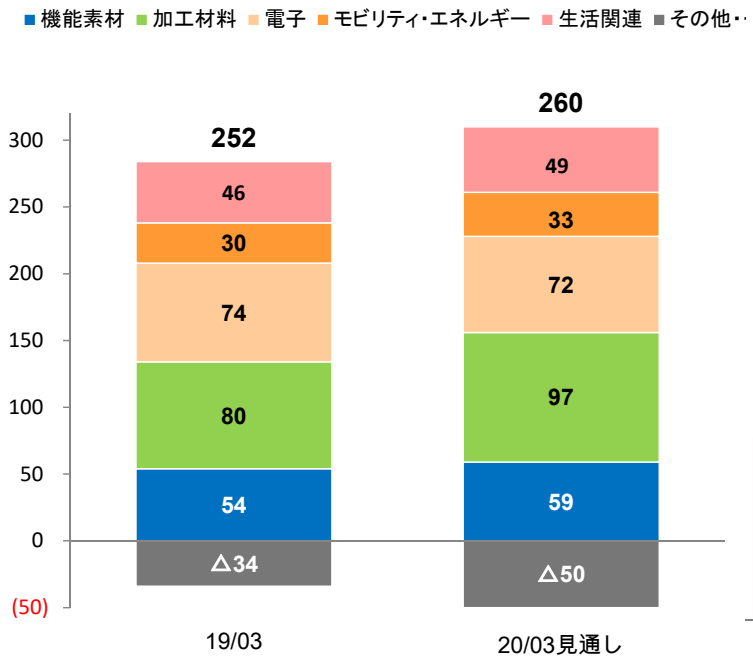
なお、2019年4月から、「自動車・エネルギー」セグメントを「モビリティ・エネルギー」セグメントに名称を変えさせていただきました。
「ヒト・モノ・データが行き交う、モビリティ全体を活動対象とする」という目論見で、
このように名称を変えています。

セグメント別営業利益見通し

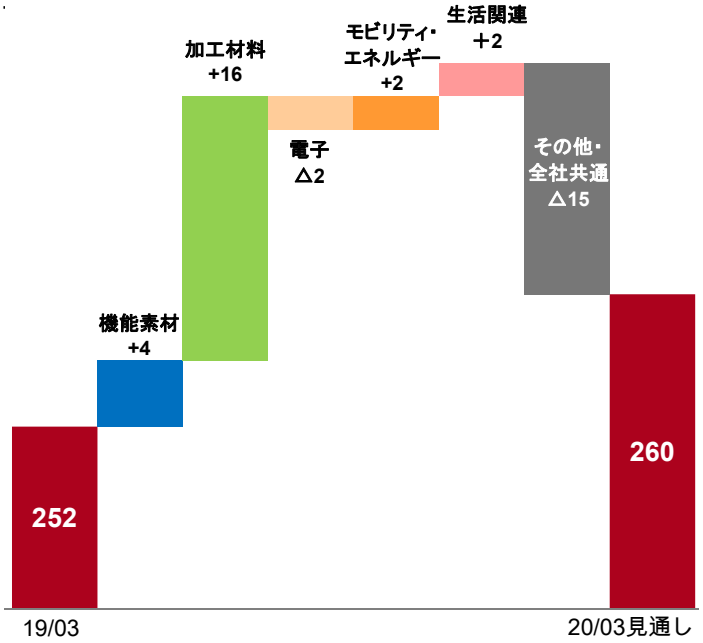
NAGASE

■電子を除く全セグメントにおいて増益となり、全体で8億円増益見通し
■製造・加工事業の収益改善が利益に寄与
■その他・全社共通：新たな事業構築など中長期的な成長に向けた施策実行の為の費用増加等により、前期比▲15億円

セグメント別　営業利益（億円）



セグメント別　営業利益 増減（億円）



※ 自動車・エネルギーセグメントは、2019年4月より、モビリティ・エネルギーセグメントに名称変更しております。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

営業利益の見通しについてお示ししていますが、
加工材料セグメントが大きく増加しています。
これは、プラスチック関連の増収に加え、情報印刷関連に関わる製造事業、
当社がセツナン化成という子会社で行っている樹脂のコンパウンド事業が、
好調に推移するという見通しから、このような増益をお示ししています。

一方で、電子セグメントはなかなか低調な状況がまだ続くと思っています。
これまでみなさまにも何度かご報告していますが、
当社は中国でガラスの薄型加工を展開させていただいており、
これまでは、携帯電話向けの仕事をしていました。

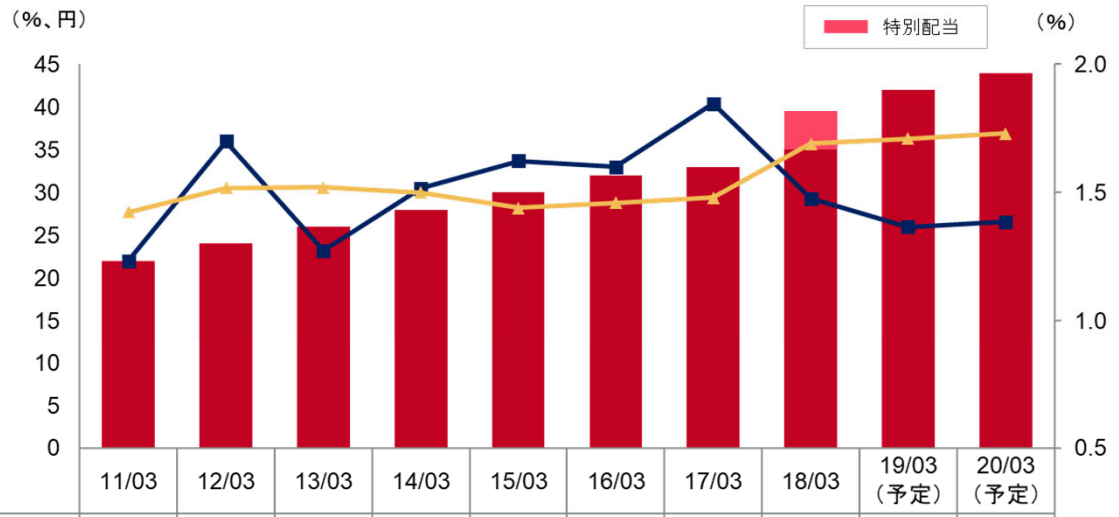
年々この仕事が、量はあるものの薄利になるということで、
当社としては思い切って高収益の方向に舵を切る、
すなわち……おもなアプリケーションは自動車に用いられるディスプレイのための薄型加工に舵を切る
ということで、
この技術確立などをお客様と進めており、
今年は踊り場的に、業績的には少しマイナスになると考えています。

配当状況

NAGASE

■当期：中間配当金18円、期末配当金24円の年間配当金42円を予定

■来期：中間配当金22円、期末配当金22円の年間配当金44円を予定（10期連続増配見通し）



	11/03	12/03	13/03	14/03	15/03	16/03	17/03	18/03	19/03（予定）	20/03（予定）
一株当たり配当金(左メモリ)	22	24	26	28	30	32	33	40	42	44
配当性向（左メモリ）	22.0	36.0	23.2	30.5	33.7	33.0	40.4	29.3	26.0	26.6
DOE(右メモリ)	1.42	1.52	1.52	1.50	1.44	1.46	1.48	1.69	1.71	1.73

※1　18/03期の配当金には、特別配当金5円を含んでおります。
※2　19/03 期の期末配当金は、2019年6月21日開催予定の第104回定時株主総会に附議予定です。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

配当ですが、

中間配当は18円でした。

期末配当は24円とし、

来たる6月21日開催予定の株主総会にて諮らせていただこうと考えています。

年間配当金は1株当たり42円となる予定です。

また、見込みになりますが、

2020年3月期は中間配当22円、期末配当金22円、年間配当44円ということで、

さらなる2円の増配を予定しています。

10期連続の増配を予定しており、お示ししています。

NAGASE

中期経営計画「*ACE-2020*」の進捗

Accountability（主体性）・ Commitment（必達）・ Efficiency（効率性）

商社からビジネスをデザインするNAGASEへ

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

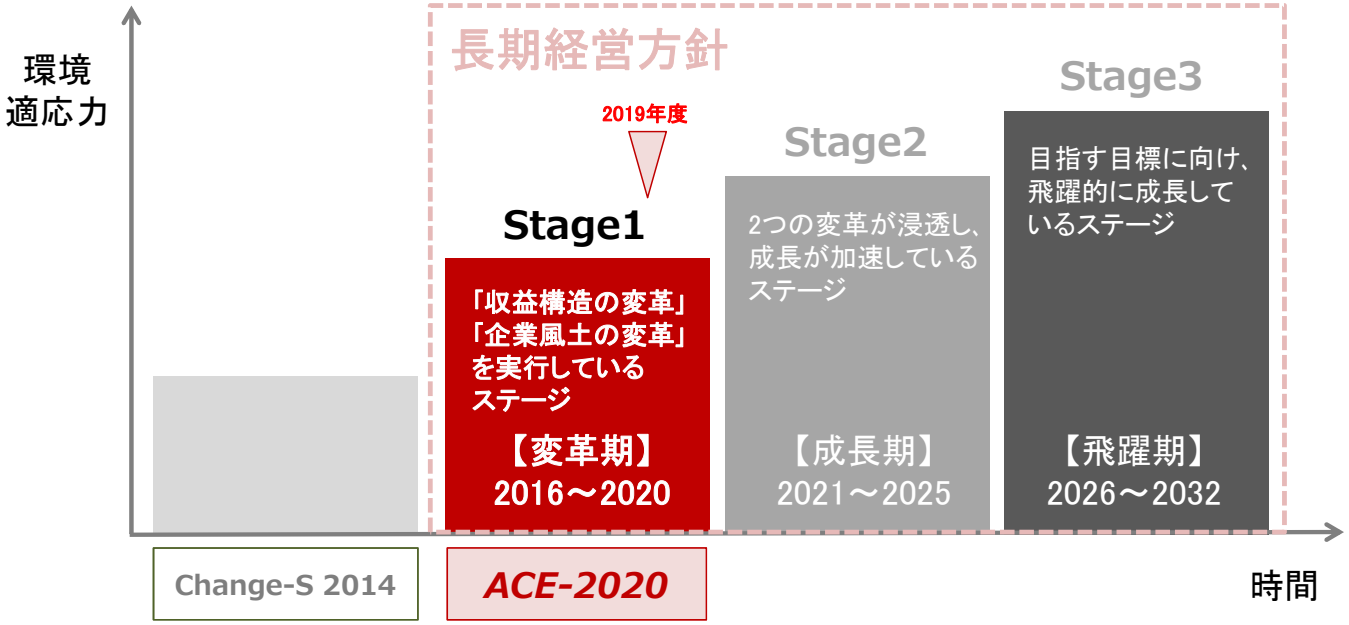
簡単になりますが、中期経営計画「ACE-2020」の進捗についてお話しします。

ACE-2020 位置づけ

NAGASE

長期経営方針の最終年度にあたる2032年までに、我々が目指す目標*を実現するために、
この17年間を3つの Stageに分け、Stage1として中期経営計画「***ACE-2020***」をスタートしました。
2019年度は「***ACE-2020***」の4年目として、引き続き、飛躍的な成長に向けて変革を進めてまいります。

＊目指す目標「現行（2014年度）比3倍の利益水準を常態化」



Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

当社の現在進行中の中期経営計画は、

2032年までの長期経営方針の中での最初のステージであり、

変革期と位置づけています。

ACE-2020 基本方針

NAGASE

商社からビジネスをデザインするNAGASEへ

商社中心の考え方から、商社をグループの機能のひとつと考え、グループ一丸となって
世界へ新たな価値を創造・提供するNAGASEを目指します

グループの持つ機能を最大限活用し、定量・定性目標を必達

【6つの機能】

収益構造の変革

ポートフォリオの最適化

事業の仕分けと領域にあった戦略の実行

資産入替と資源の再配分

全社規模の投資加速

収益基盤の拡大・強化

グローバル展開の加速 “ G6000”

製造業の収益力向上

企業風土の変革

マインドセットの徹底

主体性と責任感の醸成

トップメッセージの共有化

モニタリングとPDCAの徹底

経営基盤の強化

効率性の追求

人財育成

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

そうした中で当社は、
スライドの右に記載していますが、
投資、研究、商社活動、製造、海外ネットワーク、加えて物流といった機能を中心として、
これを基にビジネスをデザインする会社になろうということで、
いろいろな活動をしています。

「収益構造の変革」と「企業風土の変革」という大きな2つの柱の下に、
いろいろな施策を打っているところです。

「収益構造の変革」:ポートフォリオの最適化

NAGASE

2018年度の活動実績

事業の仕分けと領域にあった戦略の実行 / 資産入替と資源の再配分

注力領域　さらなる収益拡大を見込む事業領域

【エレクトロニクス】
- ○ 3D Glass Solutions社へ出資
  5G通信規格対応高周波製品の展開および半導体事業の拡大
- ○ 電子セグメントの事業部を統合
  業界全体を俯瞰し、技術・用途・産業構造の変化に柔軟に対応

【ライフ＆ヘルスケア】
- ○ 林原、長期パートナーシップ契約をロンザ社と締結、プルランおよび酵素新工場着手
  プルランカプセル市場拡大に向けた戦略的協力関係の強化
- ○ フード事業戦略室の新設
  全社の食品素材市場の戦略構築および事業拡大

育成領域　3年以内に注力領域への転換を期待する領域

- ○ マテリアルインフォマテックス共同開発開始
  人工知能を活用した新規・代替材料の探索
- ○ 自動運転技術分野(LiDAR関連)へ参入
  米国TriLumina社、加国LeddarTech社との協業を開始
- ○ Infinite Material Solutions社を設立
  3Dプリンタ用の水溶性サポート材の製品化を目指す
- ○ Axonerve™ 開発活動継続
  5G、IoT時代の連想記憶メモリのFPGA実装ソリューション

基盤領域　安定的に企業価値向上に貢献する領域

- ○ グローバル環境規制強化の対応、リスクケミカルチーム活動
- ○ Tritan™製食器、サイゼリヤ全店舗で導入
- ○ Pat!naLock®インフラメンテナンス大賞で受賞、拡販活動継続

改善領域　早期に抜本的な収益構造の改善が必要な領域

- ○ 中国:合成樹脂ホース製造事業から撤退

事業外の資産入替

- ○ 遊休資産の売却

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

2018年度の活動実績について、とくに収益構造の変革という部分でここにお示ししています。

「注力領域」の分野についてですが、これは当初から、エレクトロニクスとライフ＆ヘルスケアと謳っています。なお、スライドの一番上に「3D Glass Solutions社」とありますが、ここについては後ほどの奥村からの説明に委ねますので割愛します。

ライフ＆ヘルスケアにおいては、先ほど「プルラン」というカプセルに用いられる材料をご報告しましたが、2018年後半に、このカプセルを作る世界大手のロンザ社と長期供給契約を結ばせていただいています。これを1つの契機として、林原において、現在増産に向けた新たな投資を図っています。

フード事業についてです。当社では、フードは林原を中心に展開していますが、林原だけでフード事業を展開するのではどうしても片手落ちというか、いろいろな商材が足りません。
今後当社が国内外でフード素材事業を大きく展開する上で何をすべきかをもう一度全社をあげて考えるために、「フード事業戦略室」というものを新設しています。

「育成領域」の中で、「マテリアルズ・インフォマティクス」という記載がスライドにあります。
これはIBM社との個別契約によるもので、IBM社の「Watson」にアクセスする権利もいただき、
素材開発の新しい手法について研究しています。

KGI達成に向けた新たな取組み ①

NAGASE

2018年度の活動実績

3D Glass Solutions社へ出資

注力領域

投資 製造 海外 研究

- 5Gに対応した高周波デバイス製品の設計・製造のベンチャー企業
- NAGASEの量産技術、品質管理システムを活用し、共同開発体制を推進

目指す市場
5G、IoT、半導体市場

3D GLASS SOLUTIONS

林原：長期パートナーシップ契約をロンザ社と締結、プルランおよび酵素新工場着手

注力領域

投資 製造 海外

- プルランは酵素が作り出す天然多糖類
- 需要増加に備え、最新設備を備える
- 2019年2月着工、2020年9月竣工の予定

目指す市場
食品素材市場

戦略的協力関係を強化

新工場のイメージ

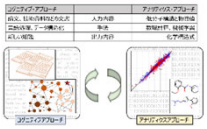
マテリアルズ・インフォマティクス共同開発

育成領域

投資 製造 海外 研究

- 米国IBM社と共同開発
- 人工知能と最新データ処理技術を活用
- 新規（代替）素材開発のコスト・期間の削減
- 2020年度サービス開始を目指す

目指す市場
新規（代替）素材を必要とする市場


プラットフォームのイメージ

中国・米州における統括会社設立

注力領域

投資 商社 海外

- 海外事業のガバナンス強化および地域主導の新規事業創造の加速を図る
- 台湾、香港を含む中国地域、メキシコ、ブラジルを含む米州地域

目指す市場
中国・米州におけるエリア独自の市場

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

24ページ、25ページは、23ページでお示ししたいろいろな施策の詳細が書いてあります。

ここではスライド右下にある、中国・米州における統括会社を設立という部分にのみ触れます。

これまで海外展開にあたり、ビジネス運営、ガバナンス面等々を含め、

日本と海外との連携により行ってきました。

もちろん、これをなくすということではありませんが、これからはスピード感ある現地主体の運営が必須となっています。

米州と中国において、現地でのガバナンス強化、また現地主導の仕事を一層進めようということで、

統括会社を設立し、今年度より運営が始まっています。

KGI達成に向けた新たな取組み ②

NAGASE

2018年度の活動実績

自動運転技術分野（LiDAR関連）へ参入

育成領域

投資 商社 海外 研究

- 米国TriLumina社、加国LeddarTech社との協業を開始
- 将来の自動運転に不可欠な技術の代理店となり、自動車部品メーカーのラインアップ拡充と開発期間の短縮を図る

TRILUMINA

LeddarTech

目指す市場
モビリティ市場

Infinite Material Solutions社を設立

育成領域

投資 製造 海外 研究

- Interfacial Consultants社との合弁企業
- FDM（熱溶解積層）方式の水溶性サポート材フィラメントの製品化を目指す
- “AquaSys®”：スーパーエンプラにも対応した業界初の水溶性サポート材

AquaSys®

Best Development in 3D Printing

2018 Best Development in 3D Printing Awardを受賞

目指す市場
3Dプリンタ市場

Axonerve™ 開発活動継続

育成領域

製造 海外 研究

- “Hyper-FiRe”：「超高速テキスト検索・置換アクセラレータ」を発表
- Linuxで動作するテキスト検索・置換ソフトウエアの中の正規表現による単語置換処理部分を、2000倍以上高速化

Axonerve®

目指す市場
5G、IoT市場

Tritan™製食器、サイゼリヤ全店舗で導入

基盤領域

商社 海外

- Eastman Chemical社（本社：米国）の合成樹脂Tritan™の日本代理店
- 透明性、耐久性、意匠性に優れる
- プロダクトデザイナー等を目指す学生（武蔵野美術大学、多摩美術大学）と共同研究を開催

多摩美術大学との共同研究の様子

目指す市場
生活用品、医療機器市場など

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

こちらは「KGI達成に向けた新たな取組み」の2つ目のスライドとなります。

「企業風土の変革」マインドセットの徹底/経営基盤の強化の進捗

NAGASE

ACE-2020 課題

マインドセットの徹底

- 主体性・責任感・危機意識の醸成
  中期経営計計画の浸透
- モニタリングとPDCAの徹底
  投資の質の向上
- トップメッセージの共有化
  コミュニケーションインフラの整備

経営基盤の強化

- 効率性の追求
  無駄の排除、組織・機能の効率化
- 人財育成

2016～2018年度	2019年度
権限委譲の実施、全社組織の見直し	
モニタリング体制の強化、ダッシュボード作成、会議体の見直し	
ACE-2020 ローリング・全社アンケート実施　新たな課題抽出と対応	
	海外・製造事業ガバナンス強化
新投資ガイドライン、M&A推進プロジェクト	
ブランディング活動（トップキャラバンの実施）、社長動画の配信、タウンミーティングの実施	
ESG活動開示方針の検討開始	サステナビリティ経営方針・マテリアリティの設定
間接部門業務効率化プロジェクト	長瀬ビジネスエキスパート 業務集約と効率化
新人事制度による運用開始	
	全社組織横断による新規技術開発

DO IT
ポスター

各社の社内報
左：長瀬産業、右：ナガセケムテックス

社長動画の配信
（年度初めのメッセージ）

トップキャラバンの様子
（中国：シンセン）

タウンミーティングの様子
（林原）

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

企業風土の変革です。

スライドの左のほうに「モニタリングとPDCAの徹底」とあります。もともと予定していましたが、

全社規模でこの中期経営計画のローリングを行いました。

こちらについては、次のページで少し説明します。

もう1つ、昨年度から新たにESG活動ということで、

昨年をNAGASEグループにおけるESG元年と位置付け、

外部への開示の仕方……当社が何を行っている会社で、

そしてどのようにみなさまに開示していくのかといったことを検討しました。

今年度はサステナビリティ経営にまで足を踏み入れ、

マテリアリティの設定を年間を通して行っていきます。

ACE-2020 ローリング

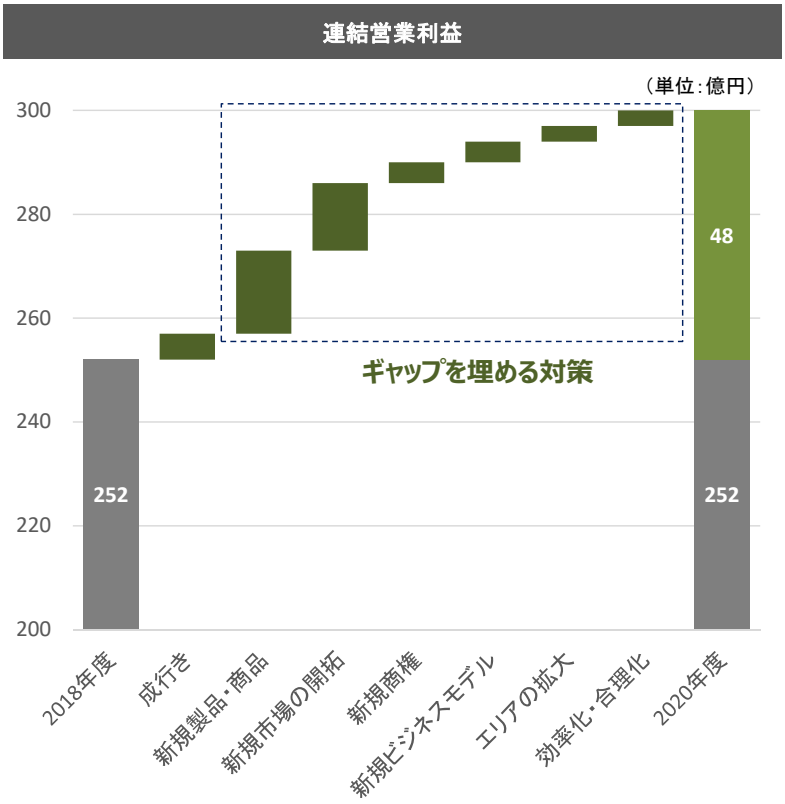
NAGASE

【ACE-2020 ローリング】

- 中期経営計画の骨子および定性・定量目標を変更しない
- 外部環境を見直すと共に、**ギャップを埋める対策**の精査により、目標達成の実効性を高める

【新たに重要性の高まりを認識した定性的な課題】

- **グローバルでの環境規制強化による供給問題**
- **海外事業機会の拡大に対応するグローバルガバナンス**
- **製造事業におけるコンプライアンス体制の更なる強化**



Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

先ほど触れましたローリングについてです。
当初から各部署でインオーガニックの成長を謳っていますが、
当然、環境の変化等々で変更が余儀なくされるものもありました。
増えるもの、減るもの、諦めるものもありましたが、
結果的に、定量的な目標は一切変えないという結論に至っています。

定性的な課題としては、とくに昨今の環境規制の強化によるさまざまな製品の供給不安等があります。
また、いろいろな不祥事等から端を発してガバナンスの強化等も謳われています。
このあたりはローリングの結果として、新たな施策に取り入れていこうと思っています。

KGIとKPIの進捗

NAGASE

KGI（Key Goal Indicator）：目標とする指標

KGI	2017年度	2018年度	2019年度（計画）	2020年度
連結売上高	7,839億円	8,077億円	8,500億円	**1兆円 以上**
連結営業利益	241億円	252億円	260億円	**300億円 以上**
ROE	5.8%	6.6%	6.5%	**6.0% 以上**

KPI（Key Performance Indicator）：KGI達成のための因数指標

変革/戦略	施策	KPI（指標）	2017年度	2018年度	2019年度（計画）	2020年度
収益構造変革の指標	注力ビジネス拡大（ポートフォリオ最適化）	*注力領域 営業利益額	131億円	126億円	131億円	**169億円**
		注力領域成長投資分配率	52%	82%	46%	**35%以上**
	グローバル展開の加速（収益基盤の拡大強化）	*海外グループ会社売上高	3,890億円	4,053億円	4,205億円	**6,000億円**
		米州売上成長率	103%	118%	125%	**170%**
	製造業の収益力向上（収益基盤の拡大強化）	*グループ製造業営業利益額	114億円	116億円	120億円	**144億円**
		*損益分岐点売上高比率	76%	76%	76%	**73%**
企業風土変革の指標	効率性の追求（経営基盤の強化）	グループ連結売上高販管費比率	10.0%	9.9%	10.0%	**9.4%**
財務戦略指標	投資	**成長投資額	235億円	324億円	529億円	**1,000億円**
	強固な財務体質	格付け（R&I）	「A」	「A」	「A」以上	**「A」以上**

*単純合算値であり、連結決算数値と一致いたしません

**中計期間中の合計額

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

KGI・KPIおよび29ページの計数の数字についてです。

現状がこのような状況だということを、

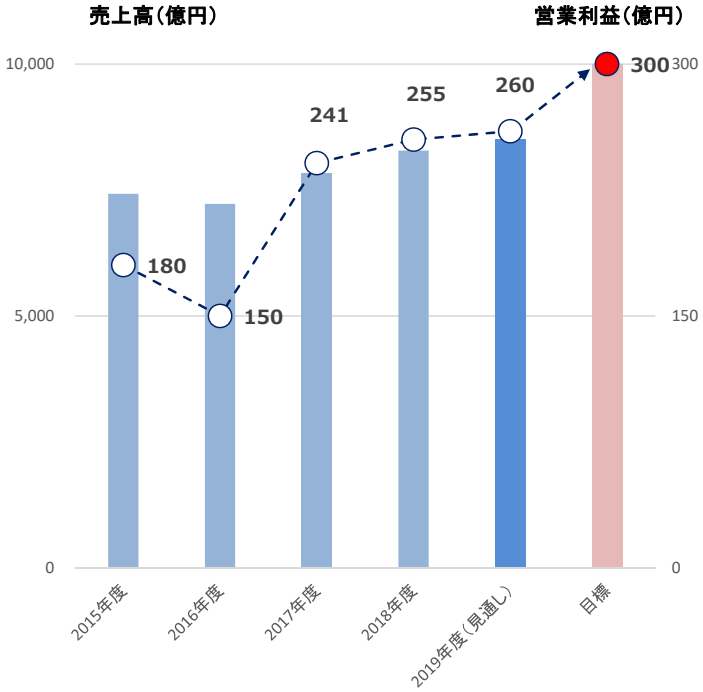
売上高、営業利益、そしてROEの表で掴んでいただければと思います。

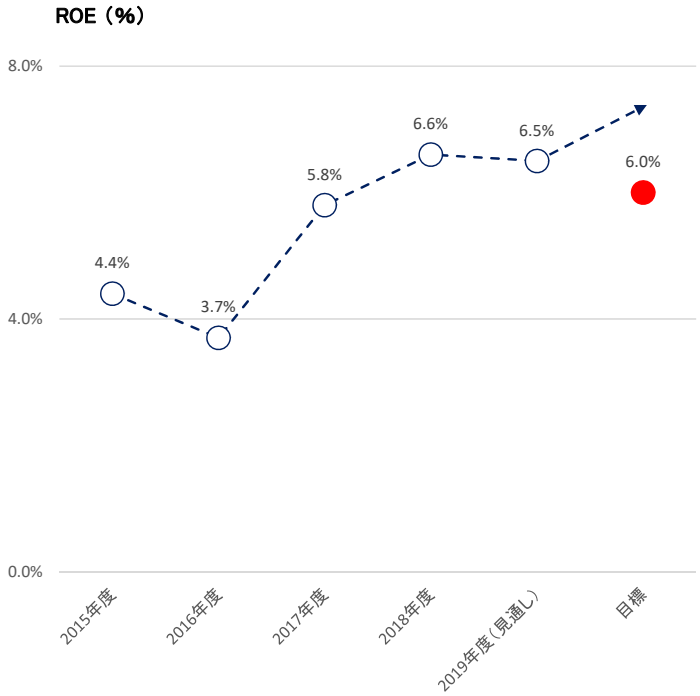
中期経営計画については以上となります。

参考資料：過去の実績と*ACE-2020*の目標

NAGASE

売上高/営業利益	ROE
1兆円/300億円以上	6%以上





Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

こちらは「過去の実績とACE-2020の目標」についてのスライドとなります。

コーポレート・ガバナンス

NAGASE

1. 指名委員会を設置

取締役の指名および執行役員の指名に関して、客観性および透明性を高めるべく、過半数が独立社外役員で構成される指名委員会を設置。

2. 取締役の員数を減員（10名から7名へ）

取締役会の活性化と実効性向上を図るべく、取締役を10名から7名へ減員することを決定（社内取締役3名の減員）。

※取締役選任議案は、2019年6月21日開催予定の第104回定時株主総会に附議予定です。

3. 買収防衛策の廃止を決定

2007年に買収防衛策を導入し継続してきたが、2019年6月21日開催予定の第104回定時株主総会終結の時をもって、廃止することを決定。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

コーポレート・ガバナンスについての今年度のトピックをお示しします。

まず、指名委員会を設置しました。

そして、来たる株主総会にて諮らせていただきますが、

今年度は取締役の数を10名から7名に減員する方向です。

また、つい今週の取締役会にて、買収防衛策の廃止を決定しています。

私からの説明はここまでとさせていただきます。

ここからは先端技術についての説明ということで、

奥村にバトンタッチします。

ありがとうございました。

NAGASE

NAGASEグループの先端技術への取組みについて

執行役員
奥村 孝弘

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

奥村でございます。

私から、NAGASEグループの先端技術への取組みということでご紹介します。

【目 次】

NAGASE

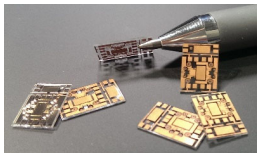
先端技術への取組み概要	P.33
5Gの概要	P.34
5G用通信モジュールの市場動向	P.35
5Gに向けた主な新規開発	P.36
3DGS社 概要	P.37
3DGS社 用途展開	P.38
NAGASEグループ テクノロジーネットワーク	P.39
NAGASEグループによるシナジー創出	P.40
NAGASEグループ グローバル製造拠点	P.41
モビリティソリューション	P.42
まとめ	P.43

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

【先端技術への取組み概要】

NAGASE

5G関連素材／技術開発



モビリティソリューション

既存事業

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

現在、NAGASEグループでは、
先端技術への取組みにおいて、
AI、バイオ、エネルギー等を進めています。
本日は、スライドの2点についてご紹介します。

まず、上段左側の次世代高速通信規格である5Gへの取組みです。
続いて、右側のモビリティソリューションとして、
自動運転技術で重要な役割を担う生産関係についての取組みをご紹介します。

現在、新規技術および製品開発を加速して、5Gとモビリティという事業の拡大を展開しています。

【5Gの概要】

NAGASE

5G

6～28GHz

遅延：1ms

高速：10Gbps

接続：100万/㎢

【5Gの課題】

高周波帯での伝送損失

4G

1～3GHz

遅延：10ms

高速：1Gbps

接続：10万/㎢

【5G実現のブレークスルー】

- ✓ IoTによるビッグデータ化 ⇒ 2020年デジタル総量44ZBに増大
- ✓ クラウドの負荷軽減 ⇒ エッジコンピューティングの多様化
- ✓ 高速・大容量通信手段が必要 ⇒ 高周波帯(5G)へ移行

低損失の「基板技術」が必要

【5Gの特徴】

低遅延 | 高速/大容量 | 多接続

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

こちらが、4Gから5Gへの移行に伴う技術概要となります。

現在、IoTによりデータ量は爆発的に増加し、

2020年には全世界で44ZBという情報量になることが予想されています。

その対策として、すべてのデータをクラウドだけでなく、

エッジと呼ばれる端末で情報を処理することが求められています。

5Gの特徴である超低遅延、超高速・大容量、多数同時接続においては、

高周波帯の電波を用いますが、

高周波には電気信号の損失というものが大きな課題となっています。

これは機器の中にある基板や配線で発生すると言われており、

当社として低損失の基板技術が不可欠と思い、現在開発を進めています。

【5G用通信モジュールの市場動向】

NAGASE

『2025年 5G用通信モジュールの世界市場は約1兆円に拡大』

【5G関連機器】

スマートフォン

スマートスピーカー

スマートウォッチ

スマートグラス

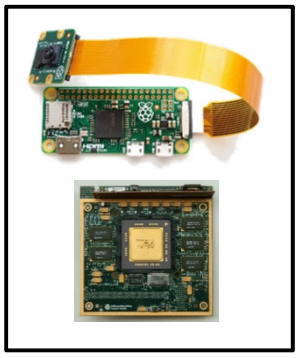
車載インフォテイメント

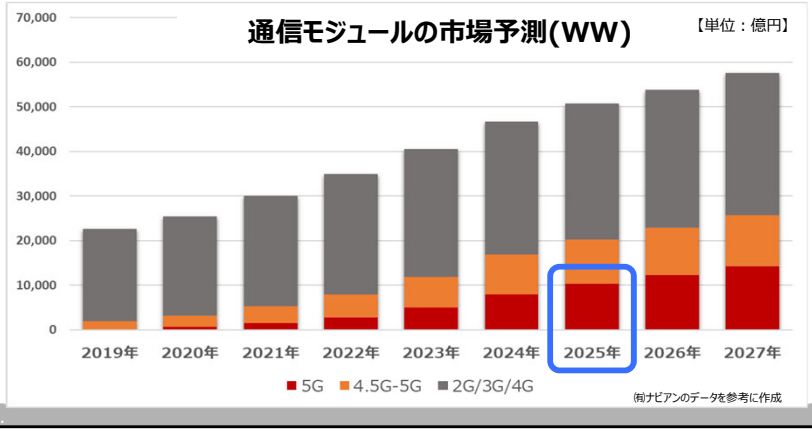
監視カメラ

基地局

スモールセル

【5G用モジュール】





Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

スライドの左上段は、5G関連機器となります。

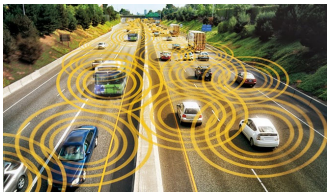
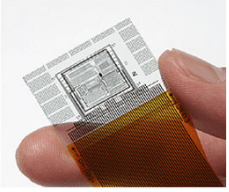
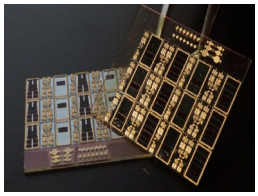
当社では、これらに内蔵される（スライド右側の）5G用モジュールの技術製品開発を進めています。

2025年、これらの機器に搭載されるモジュール関連の市場は、

世界で約1兆円の規模に拡大すると予測されています。

【5Gに向けた新規開発】

NAGASE

特　徴	超高速大容量(eMBB) enhanced Mobile Broadband	超低遅延(URLLC) Ultra Reliable and Low Latency Communications	多数同時接続(mMTC) massive Machine Type Communications
ターゲット	 高解像度画像、仮想空間(VR)など **ピーク速度:10ギガビット/秒**	 自動運転/遠隔手術、ドローン管制など **遅延:1ミリ秒程度**	 スマートシティ、スマート工場、非常用電源など **接続機器数:100万台/km²**
注力技術	**低誘電材料** 	**インターポーザ材料** 	**ガラスアンテナ**  **蓄電池**

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

5Gに向けた新規開発ということで、

先ほど、低損失の基盤技術についてお話ししましたが、

当社の注力技術として、

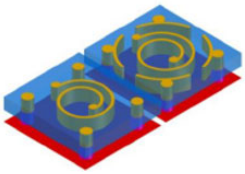
スライド下段の低誘電材料、インターポーザ材料、ガラスアンテナ、蓄電池の部材開発を進めています。

【3DGS社 概要】

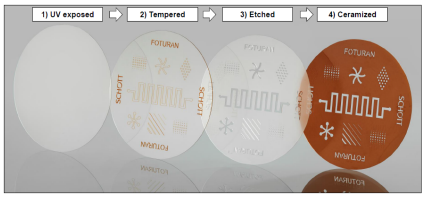
NAGASE

社名	：3D Glass Solutions, Inc.
設立	：2006年
所在地	：米国 ニューメキシコ州アルバカーキ
社員数	：20名
事業概要	：感光性ガラスを用いた半導体パッケージおよびデバイスの製造・販売
保有技術	：特許化されたガラス組成を用いた低コスト3次元ガラス加工技術
	：専用CADを用いた高周波デバイス、モジュール設計技術

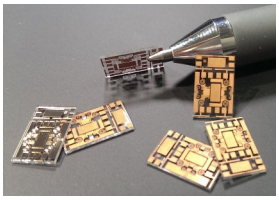
［部品設計技術］



［感光性ガラス技術］



［素子加工技術］



Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

その新たな取組みの1つが、

2018年に当社が出資した3D Glass Solutions社の高周波製品のグローバル展開です。

3D Glass Solutions社は、

アメリカのニューメキシコ州アルバカーキにあり、

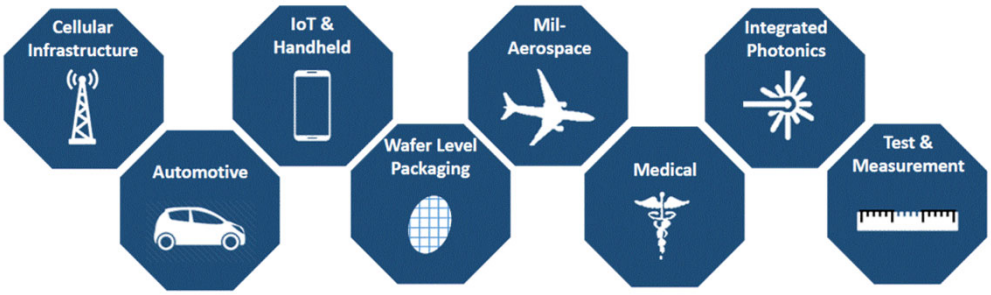
部品設計技術、またスライドの下段中央にあるような、

特許化された感光性ガラス、これらを使った3次元加工技術を強みとした企業です。

【3DGS社 用途展開】

NAGASE

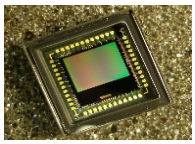
用途展開



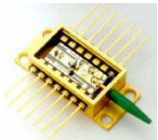
適用デバイス

RFモジュール

イメージセンサ

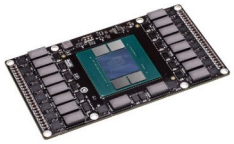


光通信モジュール

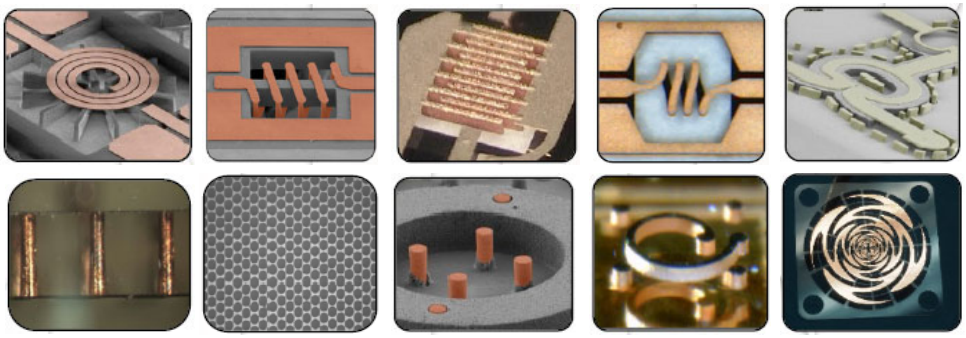


パワーモジュール

CPU/メモリモジュール



3DGSコア技術



Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

3D Glass Solutions社の用途展開ということで、
感光性ガラスを用いた、スライド一番下にあるコア技術……非常に複雑で立体的な素子や回路を、
ガラスで形成する技術が特徴です。

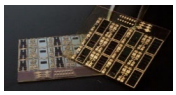
また、中空構造によって形成されたアンテナや素子が低損失を実現できるとともに、
微細加工によって小型化が達成できることから、
おもに5G対応の基地局、通信モジュール、
そして高速画像処理基板などの用途展開が期待されています。

【NAGASEグループ テクノロジーネットワーク】

NAGASE

3D GLASS SOLUTIONS

- 感光性ガラス加工技術を用いた5G対応基地局、通信モジュール向け電子デバイス・アンテナ

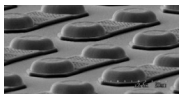
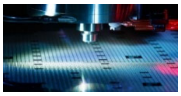


ナガセケムテックス株式会社

- 5G対応電子デバイス向け絶縁・導電・光学材料
- マイクロレンズ・記録媒体用ナノ材料　低温焼成型配線インク

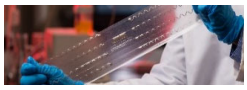
PacTech
member of nagase group

- 5G対応電子デバイス向けバンピングプロセス・接合技術・装置

EMS ENGINEERED MATERIAL SYSTEMS, INC.
NAGASE Group
ADHESIVES・CONDUCTIVES・INKS

- 5G対応電子デバイス向け絶縁・導電・光学材料
- ウェアラブルデバイス用ストレッチャブル導電インク

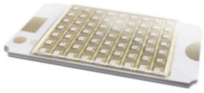
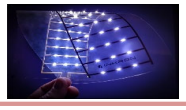


CAPTEX
NAGASE Group

- 高機能のリチウムイオン蓄電池システム
- 再生可能エネルギーからの充電による非常用電源システム

INKRON

- 5G対応電子デバイス向けシロキサン系絶縁・導電材料
- ナノ粒子・分散材を配合した機能性インク・光学コーティング材料

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

NAGASEグループのテクノロジーネットワークということで、

当社は商社でありながら、製造、加工、研究開発機能を持っていることが特徴です。

この機能によって時代の一歩先を読み、

いち早くお客さまに付加価値をご提供できるよう努力しています。

本日、各社のご紹介は割愛しますが、

3D Glass Solutions社に加え、当社グループで最先端化学メーカーであるナガセケムテックスなど、

半導体や電子部品業界において貢献しているグループ製造会社で、

5Gの技術開発および製品展開を現在加速しているところです。

【NAGASEグループによるシナジー創出】

NAGASE

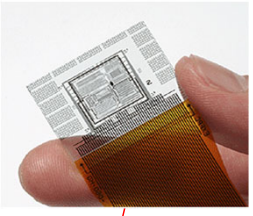
5G関連部材用途事例

Nagase ChemteX　EMS ECM　PacTech　INKRON　3D GLASS SOLUTIONS

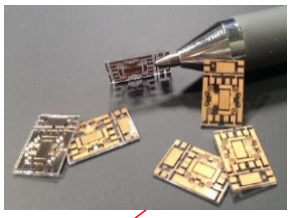
低誘電材料

配線形成

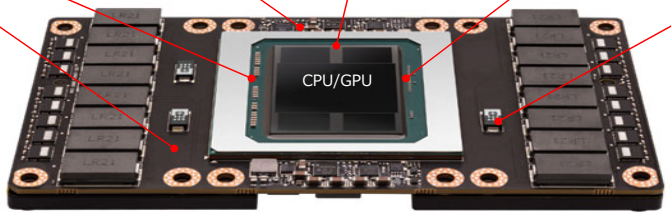
ガラス基板



ガラス受動部品



ガラスアンテナ



高速画像処理基板

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

NAGASEグループによるシナジー創出ということで、

スライドの下に、

5G用途でお話しした高速画像処理基板におけるグループ製品の応用事例をお示ししています。

左上段のナガセケムテックス社と、アメリカにあるEMS社では、

絶縁と導電材料の技術開発。

続いて、ドイツ、アメリカ、マレーシアにあるPacTech社では、メッキ及び配線の接合技術。

そしてフィンランドにあるInkron社では、光学材料技術を進めています。

3D Glass Solutions社の3次元ガラス加工技術との融合により、シナジー事業を創出しているところです。

【NAGASEグループ グローバル製造拠点】

NAGASE

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

ご紹介した5G関連技術と製品開発を行っているNAGASEグループのグローバル製造拠点です。

日本、アジア、米国、欧州における製造拠点間の緊密な連携によって、

新技術、製品開発においてより連携を深めながら、シナジーを創出して進めています。

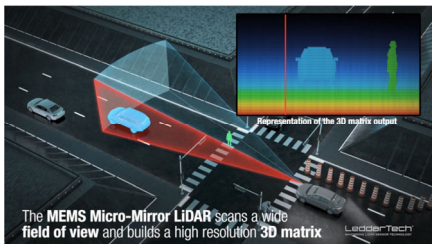
【モビリティソリューション】

NAGASE

自動運転社会の到来を見据え、要となるセンサーおよび周辺デバイスの新たな事業を展開

先進モビリティにおける『キーワード』

自動運転向けセンサーシステム「LiDAR」

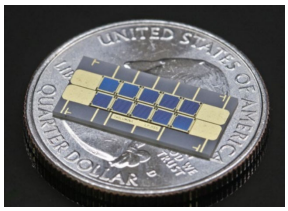


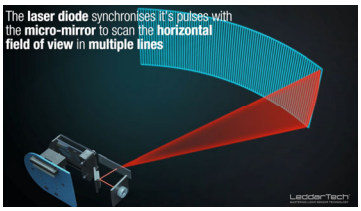
※LiDAR : Light Detection and Ranging

自動運転関連部材事例

[TriLumina社]

３Dセンシング用の面発光レーザーモジュール





[LeddarTech社]

高精度距離演算が可能な半導体

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

もう1つの取組みであるモビリティソリューションとしての自動運転技術関連製品についてご紹介します。

NAGASEグループは、従来からカーエレクトロニクスに関わるビジネスを行ってきました。
具体的には、EVやHEV用のインバーター部品、リチウムイオン電池材料、車内ディスプレイ材料等で、
これに加えて、自動運転社会の到来を見据えた要となるセンサーと電子デバイスへ事業展開を図り、
モビリティソリューションを展開しています。

具体的には、「LiDAR」に関わるところで、
スライド下段の左側に記載しているアメリカのTriLumina社は、
3Dセンシング用の面発光レーザーモジュールの開発・製造を行っています。

一方、右側のカナダのLeddarTech社は、
SoCの半導体によって、高精度な距離の演算ができるということで、
現在はこの2社と協業しながら、用途展開、市場展開を行っているところです。

【まとめ】

NAGASE

■5G高周波デバイス関連ビジネスの構築

✓ 『高速大容量、低遅延、多数同時接続』に適した**低損失材料**の技術開発および製品化

✓ NAGASEグループ保有技術と3DGS社高精度ガラス加工技術の融合による
基板材料と**ガラスアンテナ**の技術開発および製品化

■モビリティソリューションの提供

✓ 自動運転の要となるセンサーおよび周辺デバイス事業の拡大
TriLumina社およびLeddarTech社との協業による**車載用LiDAR関連製品**の販売

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

最後に、まとめとなります。

NAGASEグループとして、5G高周波デバイス関連ビジネスにおいては、

低損失材料の技術開発及び製品化、

またNAGASEグループ保有技術と3D Glass Solutions社の高精度なガラス加工技術の融合によって、

基板材料とパッケージになるガラスアンテナの技術開発及び製品化を進めています。

そして、モビリティソリューションの提供ということで、

ご紹介しましたTriLumina社及びLeddarTech社との協業によって、

車載用「LiDAR」関連製品の販売を進めています。

NAGASEグループは、今後も次世代高速通信技術の発展に貢献していきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。

（参考資料）セグメント別概況

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

機能素材セグメント

NAGASE

＜所在地別売上高・営業利益＞

（億円）

		19/03期		20/03期	
		通期実績	前期比	通期見通し	前期比
売上高	国 内	1,662	103%	1,730	104%
	海 外	587	104%	614	104%
	連結調整	▲454	–	▲467	–
	合 計	1,796	103%	1,877	104%
営業利益	国 内	42	105%	44	106%
	海 外	14	90%	16	109%
	連結調整	▲2	–	▲1	–
	合 計	54	106%	59	107%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて
調整しております。（のれん等の償却含む）

2019年3月期　実績

売上高　1,796億円（103%）

◆機能化学品事業は、自動車生産台数の堅調な推移やナフサ価格の上昇等により、塗料原料およびウレタン原料の売上が増加したことに加え、前第2四半期連結会計期間に買収した米国FitzChem社の売上が、当連結会計年度においては全期間にわたり反映されていることから、事業全体として増収

◆スペシャリティケミカル事業は、海外では売上が減少したものの、国内では半導体関連等の電子業界向けを中心としてエレクトロニクスケミカル、樹脂原料・添加剤の売上が増加したことから、事業全体として売上は微増

営業利益　54億円（106%）

◆増収により、増益

2020年3月期　通期見通し

◇顧客戦略・新規商材展開等により、塗料・ウレタン原料の売上が増加し、更に半導体等の電子業界向けエレクトロニクスケミカルおよび3Dプリンター向けエピクロ誘導体等の売上が増加し、更に環境関連ビジネスの立上げ等により、増収増益見通し

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

加工材料セグメント

NAGASE

＜所在地別売上高・営業利益＞

（億円）

		19/03期		20/03期	
		通期実績	前期比	通期見通し	前期比
売上高	国内	1,760	106%	1,918	109%
	海外	1,717	108%	1,822	106%
	連結調整	▲725	－	▲789	－
	合計	2,752	105%	2,951	107%
営業利益	国内	50	131%	57	112%
	海外	30	106%	39	127%
	連結調整	▲1	－	1	－
	合計	80	121%	97	120%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2019年3月期　実績

売上高　2,752億円（105%）

◆カラー＆プロセシング事業は、国内における工業用および包装材料用の合成樹脂、顔料・添加剤の売上および国内外における情報印刷関連材料等の売上が増加したことから、事業全体として増収

◆ポリマーグローバルアカウント事業は、国内、グレーターチャイナおよびアセアンにおいて売上が増加したことから、事業全体として増収

営業利益　80億円（121%）

◆増収に加え、製造子会社における収益性の改善等により、増益

2020年3月期　通期見通し

◇国内外における樹脂販売および情報印刷関連材料等の売上が増加し、更に樹脂コンパウンド事業の生産回復等、製造・加工事業の収益改善等もあり、増収増益見通し

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

電子セグメント

NAGASE

＜所在地別売上高・営業利益＞

（億円）

		19/03期		20/03期	
		通期実績	前期比	通期見通し	前期比
売上高	国内	1,189	92%	1,274	107%
	海外	744	99%	735	99%
	連結調整	▲710	－	▲746	－
	合計	1,223	95%	1,263	103%
営業利益	国内	38	77%	44	117%
	海外	35	88%	30	86%
	連結調整	＋0	－	▲2	－
	合計	74	83%	72	97%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて
調整しております。（のれん償却含む）

2019年3月期　実績

売上高　1,223億円（95%）

◆電子化学品事業は、半導体業界向け等の変性エポキシ樹脂関連の売上は堅調であったものの、フォトリソ材料や装置関連の売上が減少したことにより、事業全体として減収

◆電子資材事業は、半導体中間工程用の研磨剤関連ビジネスは堅調であったものの、ディスプレイ関連部材の売上が減少したことから、事業全体として減収

営業利益　74億円（83%）

◆減収に加え、前期大幅に増加したスポットビジネス（装置販売）が減少したこと等により、減益

2020年3月期　通期見通し

◇装置関連の販売は減少するものの、半導体・重電・弱電等向けに変性エポキシ樹脂の販売が好調に推移。また新規ビジネスの開始や顧客稼働率向上等によりフォトリソ材料の販売が回復し、更にディスプレイ関連部材の販売が堅調に推移することから増収となるものの、一部製造事業が低調に推移し、減益見通し

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

モビリティ・エネルギーセグメント

NAGASE

＜所在地別売上高・営業利益＞

（億円）

		19/03期		20/03期	
		通期実績	前期比	通期見通し	前期比
売上高	国内	786	117%	839	107%
	海外	856	102%	880	103%
	連結調整	▲250	－	▲268	－
	合計	1,392	107%	1,451	104%
営業利益	国内	10	377%	13	121%
	海外	19	90%	20	104%
	連結調整	0	－	0	－
	合計	30	126%	33	108%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて調整しております。

2019年3月期　実績

売上高　1,392億円（107%）

◆自動車材料事業は、国内、グレーターチャイナおよびアセアンにおいて樹脂ビジネスが好調に推移したことに加え、カーエレクトロニクス関連部材の売上が増加したこと等により、事業全体として増収

営業利益　30億円（126%）

◆増収により、増益

2020年3月期　通期見通し

◇自動車生産台数は横ばいの見通しではあるものの、国内外における販売商材の拡充等により、エンジニアリングプラスチックおよびカーエレクトロニクス関連部材等の販売が増加し、更に製造子会社の損益改善等もあり、増収増益見通し

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

生活関連セグメント

NAGASE

＜所在地別売上高・営業利益＞

（億円）

		19/03期		20/03期	
		通期実績	前期比	通期見通し	前期比
売上高	国内	1,047	104%	1,097	105%
	海外	147	109%	152	103%
	連結調整	▲287	–	▲297	–
	合計	907	105%	952	105%
営業利益	国内	72	102%	74	103%
	海外	6	206%	7	112%
	連結調整	▲32	–	▲32	–
	合計	46	111%	49	105%

※上記数値は、所在地別の連結会社数値の合算になります。
地域間連結消去を加味していない為、連結調整項目にて
調整しております。（のれん及び技術資産等の償却含む）

2019年3月期　実績

売上高　907億円（105%）

◆食品素材分野において、トレハ®等の売上は海外では増加し、国内では微増。スキンケア・トイレタリー分野では、AA2G®が国内外で売上が増加。医療・医薬分野では、医薬品原料・中間体・医用材料および製剤事業の売上が増加し、事業全体として、増収

◆ビューティケア製品事業は、全般的な販売の低調により、事業全体として減収

営業利益　46億円（111%）

◆増収により、増益

2020年3月期　通期見通し

◇医療・医薬分野におけるビジネスは減収となるものの、食品素材分野において、国内外でトレハ®の売上が増加し、更に林原ヘスペリジン®Sやファイバリクサ®の新規採用等により売上が増加し、スキンケア・トイレタリー分野では、AA2G ®および原料販売が、引き続き好調に推移し、増収。全体で増収増益見通し。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.

NAGASE

NAGASE

Bringing it all together

https://www.nagase.co.jp/

当プレゼンテーション資料には、2019年5月24日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

Copyright © 2019 NAGASE & CO., LTD.